

登米の街並み：みやぎの明治村

宮城県北部の登米市にある歴史的な町並みは、ネオンサインや自動車の騒音が支配する前の時代を思い起こさせます。かつて“とよま”と呼ばれていたこのエリアは、明治時代（1868–1912）の建物が数多く残っていることから、しばしば「みやぎの明治村」と呼ばれています。主要な観光地には、教育資料館、警察資料館、旧水沢県庁庁舎、伝統芸能伝承館 森舞台（Noh Stage in the Forest）、高倉勝子美術館、旧鈴木家武家屋敷内の春蘭亭カフェなどがあります。

静かな街並みは、映画製作者、テレビドラマの監督、アマチュアの写真家にとって人気の撮影場所です。2021 年には、NHK の朝の連続テレビ小説『おかえりモネ』の舞台の一つとして紹介され、120 話にわたって放送されました。この物語は、天気予報士を目指して遠田に戻る若い女性の物語で、全国の視聴者に明治時代の懐かしい町並みを紹介しました。

旧水沢県庁では、前述のすべての観光スポットの割引チケットを販売しています。登米市の歴史地区は仙台から簡単にアクセスでき、宮城明治村と仙台駅の間を 1 時間ごとにシャトルバスが運行しています（所要時間：1 時間 35 分）。